

参加大使：
佐藤彬子さん
(西京高等学校附属中学校1年)。
平居珠実さん
(京都女子中学校1年)

皆さんは「詩吟」と聞いてどんなことを思い浮かべますか?『おじいちゃんが歌っていた』『芸人さんが吟じているのをテレビで見た』など、一度は見聞きしたことのある方も多いのではないのでしょうか。今回、大使たちは日本の伝統芸能の一つとして、幅広い年代の方々に親しまれている「詩吟」を体験しました。

講師を務めていただいたのは、関西吟詩文化協会会長かせんの山口華雋先生と、高師範こうせんの奥山紅雋先生。お二方とも「少壮吟士しょうさうぎんし」という、吟界最高位の称号に認定された、全国的にとっても有名な方です。



最初に山口先生から詩吟についてお話をお話を聞きました。詩吟は歌うだけでなく、①詩を知

ること ②作者の背景を知ること ③作者の気持ちを知ることが大事であり、それが楽しみになると学びました。

続いて、実際に

しゅんぎょう ・春暁	—	もうこうねん 孟浩然 作
かわなかじま ・川中島	—	らいさんよう 頼山陽 作
しゅんぼう ・春望	—	とほ 杜甫 作

などの有名な漢詩を発声しながら、その背景について勉強しました。

次に、奥山先生の模範吟詠として、「春暁」や「春望」を聞きました。先生の声量やその美声にただただ圧倒された大使たち。最初は初めて聞くメロディーに戸惑う様子でしたが、先生に続いていくつかの漢詩を吟じるにつれて、次第に慣れてきたようでした。

最後は、大使たちだけで「春暁」を吟じました。短い時間でしたが、先生方の教をしっかりと学び取ったようで、山口先生や奥山先生から「初めてとは思えないし、素晴らしかった」とお褒めの言葉をいただきました。佐藤さんは「事前にインターネットで詩吟を聞いていたけど、(目の前で)実際に聞く方が良かった」、平居さんは「初めて聞いたけど迫力があって面白いと思った」と振り返っていました。



(左から佐藤さん、山口先生、奥山先生、平居さん)